

タイの工業団地について その3～バンコク中心部より東部①～



[前回](#)に引き続き、工業団地についてレポートしますが、その前に、今月、新たな工業団地造成のニュースが発表されたため、本レポートの前に抜粋内容を記載します。

◆タイ工業団地公社発表（出典：時事通信2014年3月10日付）

タイ東北部と東部に工業団地を造成することが承認されました。

- ① 東北部ウドンタニ県の「ウドンタニ工業団地」
- ② 東部チョンブリ県の「ヤマト・インダストリーズ工業団地」

「ウドンタニ工業団地」は、ウドンタニ・インダストリアル・シティーが整備する団地で敷地面積は2,200ライ（352ヘクタール）になり、電子部品や自動車部品、天然ゴム産業が中心となります。

「ヤマト・インダストリーズ工業団地」は、アメリカン・ビルダー社が整備する団地で敷地面積は690ライ（110ヘクタール）になり、レムチャバン港から70キロ、マプタプット港から75キロ、スワンナプーム国際空港から113キロの距離にあり、利便性の高い場所になります。電気・電子や自動車部品、軽工業などが中心となります。

この新工業団地の造成により、総額約960億バートの投資が期待でき、約2万人の雇用創出につながると発表されています。

それでは、本レポートに移ります。

今回は、バンコク中心部より東側地域の工業団地です。

【バンコク中心部より東側地域の特徴】

バンコクから東側のエリアは、タイで一番工業団地が多い地域です。チョンブリ、ラヨン地域が特に密集している県であり、アマタナコーン工業団地やイースタン・シーボードは特に代表的な工業団地です。

工業団地が多い理由として、レムチャバン港、スワンナプーム空港など、交通インフラや物流網が他の地域よりも整っていることが挙げられ、一番人気がある地域です。

【BOI (タイ投資委員会) のゾーン区分】

この地域は、BOIが定める第2、3ゾーンのエリアになりますが ([レポートVol.11](#)参照)、特にラヨン県には多くの工業団地があるため、雇用の面ではバンコク市内と変わらない所得水準の企業も多くあります。本来は、ラヨン地区は第2ゾーンになりますが、今年末まで暫定的に第3ゾーンとして特例が認められています。しかし、今年に入ってからデモの影響もあり、景気が冷え込むと予測されているため、本特例が継続される可能性もあります。

【労働事情】

他の地域同様、労働者不足は深刻な状態です。東北部 (イサーン) からの労働者確保が容易な時期もありましたが、進出企業の増加や工場の拡張などの影響もあり、最近では隣国のミャンマー人やカンボジア人を雇用する企業も出てきています。

また、エンジニアや管理職を希望する人材に関しては、バンコクから離れた地域になるため、高賃金を要求する者も多く、人件費高騰の一因にもなっています。しかし、高賃金や福利厚生が充実している企業でも従業員の定着率はあまり高くはありません。進出した企業もそれを認識して採用活動を行っています。

次回も引き続き、<バンコク中心部より東側地域の各工業団地>をレポートいたします。

<これまでの岡山県タイビジネスサポートデスクレポートは、[こちら](#)から>

【岡山県タイビジネスサポートデスク】

<<日本国内デスク ([株式会社アークビジネスサーチ](#)内) >>

【所在地】：東京都千代田区神田小川町 1-11-8 大竹ビル7階

【担当者】：志賀 敦（しが あつし）

<<タイ/バンコク現地デスク ([ARK ENTERPRISE CO., LTD.](#)内) >>

【所在地】：138 Boonmitr Bldg., 3rd Floor, Rm. A2, Silom Rd., Suriyawong, Bangrak
Bangkok, 10500 Thailand

【担当者】：福田 淳（ふくだ じゅん）

※「岡山県タイビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のタイでの事業展開を支援しています（岡山県からの委託業務）。ご利用にあたっては、まず[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#) (086-226-7365)へご相談ください。